

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アンバーコート中百舌鳥Ⅱ新	階数	地上7F
建設地	大阪府堺市北区中百舌鳥町1丁23	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準防	平均居住人員	65人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年2月6日
敷地面積	1,025 m ²	作成者	西川 裕嗣
建築面積	554 m ²	確認日	2018年2月6日
延床面積	2,346 m ²	確認者	鳥巢 芳郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 93%
③上記+②以外の 93%
④上記+ 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 4
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 を出来る限り多く設け、自然と親しむ環境と地球環境負荷の軽減を同時に取り組んだ。	植栽	
Q1 室内環境 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 出来る限り室内の間仕切壁を無くし、空気が循環するように努め負荷軽減に配慮した。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ゆとりある階高、天井高とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 出来る限り緑地を設け、周辺の住宅地に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率な機器を採用し、エネルギーの削減を図った。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 への健康や地球環境に配慮した材料を採用した。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 振動や光害への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	(仮称)アンバーコート中百舌鳥Ⅱ新築工事	BEE	BEEランク
	建設地	堺市北区中百舌鳥町1丁238-1	0.9	B-
	主用途/延床面積	集合住宅 / 2,346.45 m ²		

2. 重点項目への取組み				
重点項目	評価点	取組み度		
CO ₂ 削減	3	● ● ● ● ●	● ●	
省エネ対策	3	● ● ● ● ●	● ●	
みどり・ヒートアイランド対策	2	● ● ● ● ●	● ●	
安全快適な暮らし	3	● ● ● ● ●	● ●	

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	-	風力	-	地熱	-		
	太陽熱利用	-	水力	-	バイオマス	-		

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア					
CO ₂ 削減	評価項目			スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値			3.2	3
省エネ対策	評価項目			スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.2」のスコア による評価値	建物全体	1.0	3	
		住居・宿泊部分	1.0		
建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値				3.0
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値				2.0
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値				5.0
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値				対象外
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値				2.2
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目			スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値			2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値			2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値			2.0	
安全快適な暮らし	評価項目			スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値			4.0	3
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値			3.0	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値			2.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値			5.0	

4. その他	
技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	